□ Womersley, H. B. S.: **The marine benthic flora of southern Australia, Part II** 484 pp. 1987. D. J. Woolman, Government Printer, South Australia. ¥7,600. 南オーストラリア海藻誌の第2巻で，褐藻類104属23種と黄緑藻類のフシナシミドロ属の5種が扱われる。第1章採集地点の概略，第2章褐藻類，第3章フシナシミドロ属の順序で，褐藻類に430頁が費されている。この章では，形態，生活環，分類体系の記述に続いて目の検索があり，各目には形態，生活環の記述のあと検索表がある。科，属にはそれぞれ記載と検索があり，種には記相のほかに全体図または解剖図が添えられる。南オーストラリアの海藻については，古く有名な W. H. Harvey (1958～1863) の "Phycologia Australica" (全5巻) があり，今世紀に入って A. H. S. Lucas (1936) の "The seaweeds of South Australia, Part I. 序論及び緑藻と褐藻", Lucas & F. Perrin (1947) "同名の書 Part II 紅藻" があるが，扱われた種類数，記述の内容ともに充分でなく，新しい海藻誌の刊行が俟たれていた。今回出版の Womersley 教授の海藻誌は，著者自身の研究成果が記述の中心であり，これにこの分野の近年の知見が正確かつ豊富に取り入れられ，秀れたものとなっている。なお Womersley 教授は同名の書の第1巻を1984年に出版している (Womersley, H. B. S.: **The marine benthic flora of southern Australia, Part I** 329 pp. 1984. D. J. Woolman, Government Printer, South Australia. ¥4,200). この第1巻は，第1章序論及び採点地点の概略，第2章海産植物と採集と標本作成及び保存の方法，第3章南オーストラリアの海藻の研究史，第4章南オーストラリアの海産植物の生態，第5章南オーストラリア沿岸の海洋生物地理に続き第6章海産種子植物8属21種 (この章 E. L. Robertson 執筆)，第7章緑藻類39属127属 (シオグサ属のみ C. van den Hoek と共同執筆)，第8章車軸藻類 *Lamprothamnium papulosum* 1種の分類学的記述がある。南オーストラリア沿岸は日本沿岸，北米太平洋沿岸，アフリカのインド洋沿岸とともに世界で最も海藻類の豊富な地域として知られている。最新の知見を豊富に盛り込んだ南オーストラリア海藻誌第1巻 (緑藻・海産種子植物) 及び第2巻 (褐藻・黄緑藻) の刊行の意義は大きい。最も種類数の多い紅藻を扱った第3巻の刊行が俟たれる。　(千原光雄)

□片田　實: **浅草海苔盛衰記—海苔の五百年** 202 pp. 1989. 成山堂書店，東京，¥2,884. 養殖以前の戦国時代から江戸期を経て現在に到る東京湾を中心とした浅草海苔の変遷の歴史について，社会情勢を背景に，海苔養殖がいかに行われてきたか，そして養殖技術の改良進展はどのようであったかなどが中心に記述される。これまでの定説を砕き，新たな根拠に立った新説が幾つも登場し，興味をひく。全編を通じて肩の凝らない一般向けの楽しい読物となっている。著者は水産植物学の専門家 (東京水産大学名誉教授) であり，本文には植物学的な記述も多い。海苔関係者のみならず，広く一般の方にも一読を奨めたい好著である。　(千原光雄)